

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クリーンセンター施設	階数	地下2F、地上5F
建設地	京都府木津川市	構造	SRC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	51人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年4月15日
敷地面積	50,747 m ²	作成者	増本 稔
建築面積	3,770 m ²	確認日	2016//
延床面積	8,282 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	92 (kg-CO ₂ /年・m ²)
② 建築物の取組み	46
③ 上記+②以外の	81
④ 上記+	81

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.4

音環境	3.0
熱環境	1.5
光・視環境	2.7
空気環境	3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4

機能性	3.7
耐用性	3.3
対応性	3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.5

生物環境	4.0
まちなみ	5.0
地域性	4.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.3

建物外皮の	N.A.
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9

水資源	3.8
非再生材料の	2.8
汚染物質	2.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

地球温暖化	3.7
地域環境	2.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項

<ul style="list-style-type: none"> 当施設の設置に係る環境関連法及び条例等に適合すること。 自然環境の多く残る地域であるため、可能な限り周辺への環境影響を回避・低減できる計画とする。 	特になし
<p>① 音環境(建物内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 見学者の通行経路は、プラント機器からの騒音の影響が少なくなるよう防音対策を行った。 炉室からのにおいが居室に漏れないよう、炉室内は第3種換気とする。 	<p>② サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共的施設の地域開放のため、見学者スペース及び展示室の設置をした。 住民の緊急時避難施設対応のために、屋外広場、浴室、WC、会議室等(居室)を利用できるようにした。
<p>③ 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の生物環境を保全するため、敷地の両側は自然林のままとした。 建築物が周辺環境に溶け込む様に、外装材料及び色彩の選定に配慮した。 	<p>④ 騒音・振動</p> <ul style="list-style-type: none"> 騒音・振動の発生機器が多数あるため、建屋の配置を検討し、設備機器の騒音対策などを行った。
<p>⑤ 省エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明は消費電力の少ないLED照明を多く使用した。 再生可能エネルギーである太陽光発電施設を設置した。 自然エネルギーの利用として、トップライトを採用した。 	<p>⑥ 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨水を貯留し、屋内消火栓設備及び植木の散水に利用する。 節水型便器など、節水設備機器を利用する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される